

令和4年度 外国人留学生のための能楽鑑賞教室を実施しました

1. 日 時： 令和4年10月14日(金) 17:00 ~ 19:30
2. 内 容： (1) 能楽についての解説(英語)
(2) 狂言「墨塗」および能「鍾馗」の鑑賞
※日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語の字幕表示あり
3. 会 場： 国立能楽堂
4. 参 加 者： 27名(中国14、韓国2、インドネシア、フィリピン、米国、アルゼンチン、英国、エジプト、ブラジル、モンゴル各1名、
協会職員3名)

5. 実施状況：

本事業は、国立能楽堂が実施する「外国人のための能楽鑑賞教室」に参加するもので、外国人留学生24名を引率しました。能・狂言を初めてみる留学生が多く、正面最前列で鑑賞したため、日本の伝統文化を体験する貴重な機会となりました。

参加者には、事前に国立能楽堂による能楽の説明サイト「能楽への誘い」を案内するとともに当日は「能楽入門：鑑賞の手引き」を配布することで事前学習を促しました。参加者アンケートでは、「とてもよかった」「よかった」の回答が10割という結果となり、参加者が満足した様子がうかがえました。

6. 参加者の感想

- ・最初は言語が心配だったが、字幕がありよく理解できた。割り振られた席も舞台に近くて見やすかった。
- ・中国の伝統的なキャラクター鍾馗が出てきてびっくりした。でも日本に伝わってから話が少し変わっている。
- ・日本の伝統演劇で中国の物語を見ることができて、古代中日両国の緊密な関係を感じた。
- ・伝統芸能を守る芸術家たちをととても尊敬している。
- ・昔の文化を見てこそ、その国の情緒を知ることができる。
- ・日本に何年住んでいても能楽について知らない外国人が多いようだ。私も知らなかったし、新鮮でいい経験になった。

